

広報写真で振り返る

2018年



- 1月
- 対馬市成人式に新成人261人（男136人、女125人）が出席 ①
 - 平成32年開館予定の対馬博物館（仮称）及び長崎県立対馬歴史研究センター（仮称）の建設工事安全祈願祭
 - 自分たちのまちは、自分たちで守る。約500人の消防団員が参加した平成30年対馬市消防出初式
 - SNSなどで魅力発信！対馬市国境の島・海の魅力発信隊が発足 ②

- 2月
- 第17回対馬少年の主張大会で久田中学校の中尾麻衣子さんが最優秀賞を受賞 ③
 - 朝鮮通信使に関する記録がユネスコ記憶遺産に登録された記念イベント「朝鮮通信使の集いin対馬」開催 ④

- 3月
- 卒業生204人が夢に向けてスタート。対馬市内の高校で卒業証書授与式 ⑤
 - 大調小学校が閉校。142年の歴史に幕 ⑥

- 4月
- 自然災害対策や自主防災組織の結成促進のため市役所総務課内に「地域安全防災室」を創設
 - 第4代 対馬市消防団長に安田壽和氏が就任
 - 対州そばの品質と味を守り伝え、価値を高めることを目的に「対州そば」がGI産品に県内初登録 ⑦

- 5月
- ICT教育を推進。市内の小学校に424台、中学校に896台。タブレット端末を導入 ⑧
 - 英霊の御霊に献花「日露・対馬沖海戦追悼慰霊祭」

- 6月
- 「第8回対馬市消防ポンプ操法大会」ポンプ車操法の部優勝：豊玉第1分団、小型ポンプ操法の部優勝：美津島第2分団 ⑨
 - 故 國分英俊さんが第33回長崎県地域文化章を受章
 - 「第46回韓国語弁論大会」で、対馬高校普通科国際文化交流コースの柿田千華さん（3年）が最高賞の優秀賞を、瀬村伊吹さん（3年）が奨励賞を受賞。対馬高校は最高賞を3年連続で受賞 ⑩



10 瀬村伊吹さん 柿田千華さん



11



12 平成29年度 第71回卒業生一同



13 糸瀬勇助選手 黒岩誠亥選手



14



15



16



17



18



19

- 7月**
- 過去最多1,417人がエントリー！「第22回 国境マラソンIN対馬」が開催 **11**
 - 博多⇄釜山航路の高速船ビートルの一部座席を利用して、比田勝⇄博多航路に国際線への国内旅客混乗便運航開始！ **12**
- 8月**
- ソフトボール男子TOP日本代表に糸瀬勇助選手（上県町出身）と黒岩誠亥選手（美津島町出身）が選出されチェコ共和国で行われた、インターコンチネンタルカップ2018に出場。2人の活躍で準優勝に輝く！ **13**
 - 平成32年3月末完成予定の厳原港国内ターミナルの新築工事安全祈願祭
 - 対馬の将来を担う中学生が、子ども達の目線で対馬を考える「平成30年対馬市子ども議会」が開催 **14**
 - 中学校体育大会の長崎県大会・九州大会ともに新記録で優勝した雞知中学校3年の俵芹菜さんが全国大会で4位入賞 ※第49回ジュニアオリンピックにも出場（10ページ参照） **15**
- 9月**
- 「太鼓祭inふくおか第4回南日本大会」で上対馬町太鼓保存会「かつちえる」が組太鼓ジュニアの部で準優勝 **16**
 - 「赤い稲穂（豆鮎の赤米）」を後世に伝える豆鮎赤米バスツアーを開催 **17**
- 10月**
- 対馬市商工会本所移転・支所統合で1本所3支所体制に！
 - 対馬空港ターミナルビル1階搭乗・到着口がリニューアル **18**
 - アップダウンが激しいコース（123km・50km・18kmの3つのコース）のゴールを目指して出走「国境サイクリングIN対馬」を開催 **19**
- 11月**
- 爆破テロ等の緊急対処事態を想定した長崎県国民保護訓練を実施
 - 雨森芳洲先生生誕350周年記念イベント「誠信の集い」を開催

取材では、皆様のご協力をいただきありがとうございました。2019年もよろしくお願ひします。

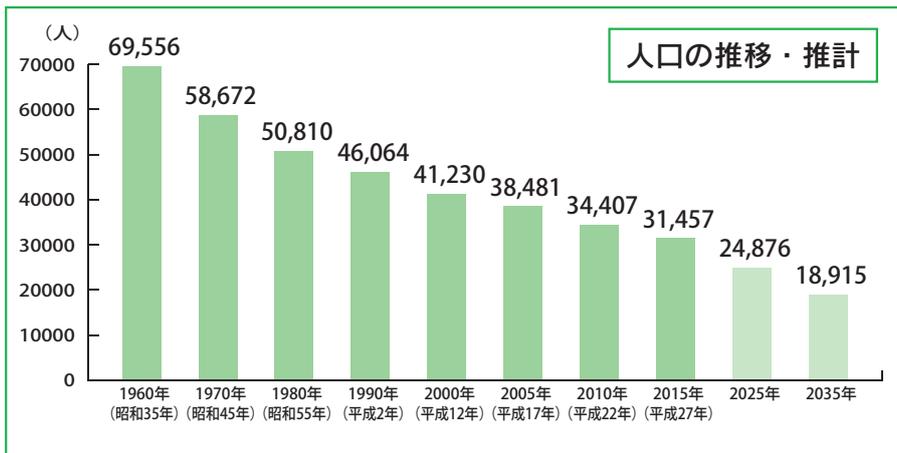
対馬に暮らし、対馬に生きる

進学や就職による若者流出などにより人口減少が続く対馬。

一方で、対馬に暮らすこと、対馬で生きていくことを決意し、対馬に帰ってくる人、対馬に移り住む人が増えています。



対馬の人口は今…



【出典】2015年以前：国勢調査 2025年以降：日本の地域別将来推計人口（2018年推計）

対馬市の人口は、昭和35年をピークに減少し、平成27年には31,457人まで減りました。

このままの状況が続けば、2035年には、18,915人まで人口が減少するという推計も出されています。

また、平成2年以降、生まれてくる人よりも、亡くなる人が多い人口の「自然減」が続いており、併せて市外への進学や就職などにより対馬を離れる人が、対馬に入ってくる人よりも多い「社会減」の状態も続いています。

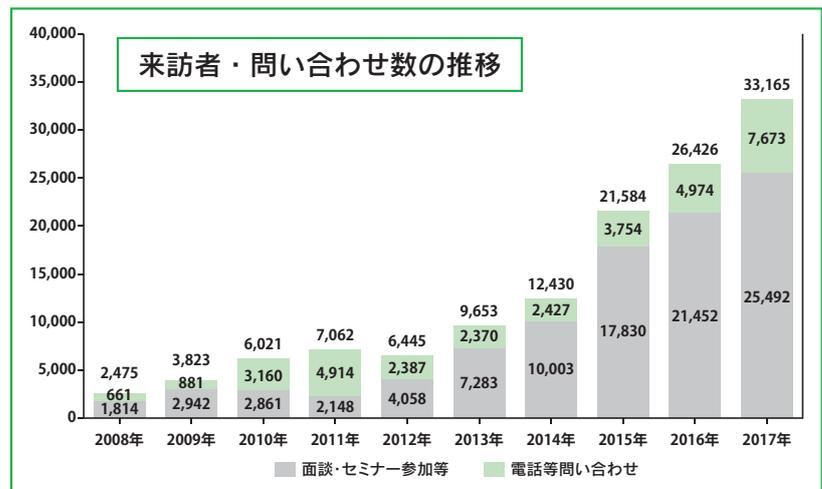
しかし、2年程前からこの社会減の数値に変化が表れ、平成28年度に416人であった社会減が、平成29年度には約半数となる216人まで減少幅が縮小しており、平成30年度には減少幅が更に縮小することが見込まれています。これは、有人国境離島法による雇用確保対策などの施策をはじめ、様々な環境の変化により対馬への移住に関心が寄せられていること、などの要因が考えられます。

そのような状況の中、対馬市への移住者は、平成29年度（4月～3月）に56人、平成30年度（4～11月）には88人と増加傾向にあります。

人生の選択肢になった『地方移住』

日本の人口は、東京など大都市圏に集中しています。しかしながら地方に移り住むことを考えている人は増えてきました。

そのような大都市圏に住んでいる人の地方移住をサポートするため、平成14年に開設された「認定NPO法人ふるさと回帰支援センター」への相談件数が年々増えており、地方への移住が人生の選択肢になっていることがうかがえます。



【出典】：認定NPO法人ふるさと回帰支援センター

私たちが、都市部で地方に移住したいと考えている人たちと、地域をつなぐたいと、2002年に開設した団体です。今、対馬を含む地方へ移住したいと私たちに相談に訪れる人の数は、1か月に4000人を超えるようになりました。

これまで、いい大学に入り、大企業に入ることがよい人生だとの価値観によって、大都市に人が集まって来ていました。しかし、地方の豊かな自然や、風土とともに、色々な暮らしをしたいという価値観が生まれ、その考えは今、広がりを見せています。私たちに相談に来る人だけで、年間4万に迫る状況は、もう「流行」という言葉だけでは済まされない状況だと思います。

私たちに相談に来る希望者は「故郷に帰って生きたい」「自然とともに暮らしたい」「自然の中で子育てをしたい」など様々です。その方々には、地方で暮らす心構えを理解していただいでから送り出しています。

対馬の皆さんには、そんな想いをもちた人たちに気軽に声をかけ、一緒に地域を作っていく仲間として受け入れていただければと思います。

私たちは、都市部で地方に移住したいと考えている人たちと、地域をつなぐたいと、2002年に開設した団体です。今、対馬を含む地方へ移住したいと私たちに相談に訪れる人の数は、1か月に4000人を超えるようになりました。

これまで、いい大学に入り、大企業に入ることがよい人生だとの価値観によって、大都市に人が集まって来ていました。しかし、地方の豊かな自然や、風土とともに、色々な暮らしをしたいという価値観が生まれ、その考えは今、広がりを見せています。私たちに相談に来る人だけで、年間4万に迫る状況は、もう「流行」という言葉だけでは済まされない状況だと思います。

私たちに相談に来る希望者は「故郷に帰って生きたい」「自然とともに暮らしたい」「自然の中で子育てをしたい」など様々です。その方々には、地方で暮らす心構えを理解していただいでから送り出しています。

対馬の皆さんには、そんな想いをもちた人たちに気軽に声をかけ、一緒に地域を作っていく仲間として受け入れていただければと思います。

私たちは、都市部で地方に移住したいと考えている人たちと、地域をつなぐたいと、2002年に開設した団体です。今、対馬を含む地方へ移住したいと私たちに相談に訪れる人の数は、1か月に4000人を超えるようになりました。

これまで、いい大学に入り、大企業に入ることがよい人生だとの価値観によって、大都市に人が集まって来ていました。しかし、地方の豊かな自然や、風土とともに、色々な暮らしをしたいという価値観が生まれ、その考えは今、広がりを見せています。私たちに相談に来る人だけで、年間4万に迫る状況は、もう「流行」という言葉だけでは済まされない状況だと思います。

私たちに相談に来る希望者は「故郷に帰って生きたい」「自然とともに暮らしたい」「自然の中で子育てをしたい」など様々です。その方々には、地方で暮らす心構えを理解していただいでから送り出しています。

対馬の皆さんには、そんな想いをもちた人たちに気軽に声をかけ、一緒に地域を作っていく仲間として受け入れていただければと思います。



様々な思いを胸に対馬で暮らすことを決意された方々をご紹介します

ふるさとと呼べる場所が 対馬でした

大石 裕二郎さん
(静岡からの孫ターン)

私は、対馬出身の父が広島にいるときに生まれ、その後、父の転勤に合わせ、県内各地で育ちました。静岡に進学すると、そのまま就職して静岡で暮らしていたのですが、ふるさとを元気にしようと頑張っている地元の人たちとの交流が生まれ、ふるさとで何かやりたいと思うようになりまし

た。「色々な場所で育った私にとって、ふるさとと呼べる場所はどこだろう…」と考えたとき、父の出身地である対馬が思い浮かびました。父が対馬に帰り、紅茶の栽培に取り組んでいたことも後押しし、対馬に来ることにしました。今、対馬産の紅茶や柚子を使った製品の製造や販売を行っています。子どものころ、年数回しか対馬に来ていない私にとって、知らないことだらけの対馬ですが、家族や地域の人たちに支えてもらいながら、対馬を元気にする何かができればと思っています。



地域の支えが ありがたいです

大石 みゆきさん
(静岡からの1ターン)

夫が対馬に帰ると決断した時、不安の方が大きかったことを憶えています。仕事など生活の変化や、離島で自分がやっていたりできるかなど、多くの不安の中で始まった対馬での生活で、夫の両親や地域の方々の支えがとても有り難かったです。

特に対馬での子育てについて、たくさんの方に声を掛けていただき、手伝っていただいていることは、とても助かっています。

これから、夫が持つ対馬や地域に対する強い想いを形にできるよう力を出し合い、地域の力になればと思っています。



対馬の良さは 変わっていない

築城 幸治さん
(福岡からのUターン)

高校卒業後、福岡へ出て働き始め、その後家族も福岡に来たため対馬に実家はありませんでした。ただ、区切りが来たなら「田舎」で暮らすんだということは、福岡に行った時から意識していました。

40年ぶりの対馬での生活を前に「移住おためし住宅」を活用し、対馬で暮らす準備を行いました。家を探していた時、色々な方に親切にいただき、対馬の人たちの良さは昔とちっとも変わっていないと嬉しくなりました。対馬に来て数か月、市の臨時職員として働き、市内各地を回っています。

山や海の姿が、変わってしまい悲しい思いをすることもありますが、少しでも対馬のためにお役に立てることがあればと思っています。

自分の子どもにはいなかった「田舎のじいちゃん」になって、孫に色々なことを体験させてあげたいです。



「自分だけの時間」を 届けたい

齊藤 加代子さん
(東京からのUターン)

美容師だった母の仕事場が遊び場だった私は、小学校の頃から自然と美容師になろうと思っていました。美容師になるために東京の美容学校に進学し、都内に残って美容師として働きましたが、神奈川県出身の夫と結婚し、子育てを機に夫と子どもを連れ対馬へ戻りました。

対馬で美容師の仕事をするつもりはなかったのですが、お客様との触れ合いや、創り出す楽しさが忘れられなくて、美容室を開業しました。仕事があることで、育児とのバランスや良い気分転換になっています。

私の美容室は完全予約制で、島の暮らしの中で「自分だけの時間」を楽しんでもらい、自分を解放できる場所になるように心掛けています。

対馬で暮らすことをお考えの皆さんを応援しています

対馬市では「しまぐらし応援室」の設置や島おこし協働隊「しまぐらしコーディネーター」を配置し、対馬へのUターン・Iターン・孫ターンを考えている方へ、様々な支援を準備しているほか、都市部での移住相談会や情報発信、各種サポートを行っています。

ちなみに…

Uターン：地方出身者が、都市部で生活した後、生まれ育った地方（地元）に戻ること
Iターン：生まれ育った地域以外の地方に移住すること
孫ターン：親あるいは祖父母のいる（いた）ゆかりのある地方に移住すること

しま暮らし支援補助金

引越経費支援

住宅家賃支援

住宅借上初期費用支援

子育て世代移住支援

※詳しくは裏表紙(P26)をご覧ください。



都市部での移住相談会

創業等支援事業補助金

対馬の元気を創造するため、新規創業や新たな分野への取組等に対して補助金を交付し支援します。



しまぐらし応援室

「対馬への移住」は私たちが頼ってください!!
スタッフが親身になって移住をサポートします。



海のない埼玉県出身の私にとって、海の近さは大きな魅力です

今、対馬に移住したいと考えている方々は、日本と韓国の架け橋として位置する対馬に対し、いろんな可能性があると感じていらっしゃると思います。そんな人たちと、市民の皆さんを結び付けられたら良いなと思っています。広大な対馬は、地域ごとに置かれた状況も違うので、もっともつと市民の皆さんと接点を持って、対馬のことを知り、皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思っています。

離島で生活してみたいと思っていた時、ちょうど島おこし協働隊の募集があつていて、初めて対馬にやってきました。対馬のことは、見るもの間くも全てが新鮮ですし、人のつながりが強いところが特に良いところですね。しまぐらしコーディネーターとして、移住相談会での相談や電話やメールなどで補助金や暮らしに関する相談などをお受けしていますが、対馬初心者だからこそ、移住を希望される方と同じ目線で対馬のことを見ることができ、フォローができるのではないかと思います。

島おこし協働隊
しまぐらしコーディネーター
もとくい むつみ
元 杭 睦

島に暮らす私たちにとって、たくさんのモノにあふれた都会に憧れるのは、ごく当たり前のことです。一方で、私たちの周りに「当たり前にある暮らし」は、実は「宝」にあふれています。豊かな自然の恵みや食文化、そして人と人とのつながり。対馬にしか無い「宝」は、実は私たちの足下にあるのです。

広報つしま5月号でも紹介した対馬イメージソングの「夢・この街」には、こんなフレーズがあります。

忘れかけた優しさ 人のぬくもり
心やすらぐ「夢・この街」 それは君のふるさと



「夢・この街」をお聴きになりたい方はこちらへ

対馬の「宝」に気づき、対馬で暮らすこと、対馬で生きることを決意した皆さんを対馬市は応援しています。